

61. 「天然水の森」を科学する

サントリービジネスエキスパート（株）水科学研究所
サントリーホールディングス（株） 編
J-FIC（2013）
B6判 p.199
定価 2,000円



目次

- 第1章 奥大山における「天然水の森」の管理とブナの森工場の生物多様性緑化（日置佳之・千布拓生）
- 第2章 景観管理・集水域管理による森林の再生（伊藤 哲）
- 第3章 自然再生事業とは何か（島谷幸宏）
- 第4章 見えない地下水の動きを探る（辻村真貴）
- 第5章 間伐が水源涵養機能に与える影響（恩田裕一）
- 第6章 天王山の竹林における物質循環の解明（徳地直子）
- 第7章 ツルの渡来地を増やす（柳澤紀夫）
- 第8章 虫の目から見た生物多様性の危機（奥本大三郎）
- 第9章 ナラ枯れとシカの食害で失われる自然（服部 保）
- 第10章 マツ枯れ・ナラ枯れを炭で防ぐ（小川 真）
- 第11章 シカの食害による土壌流亡を防ぐ知識と技術（石川芳治）
- 第12章 水を育む森林の土壌特性を明らかにする（金澤晋二郎）
- 第13章 路網整備を中心に林業と地域を再生する（長谷川尚史）
- 第14章 「自然に優しい作業道」をつくる（田邊由喜男）
- 用語解説一覧
- 主要参考文献一覧

紹介コメント

サントリーは、その生命線とも言える地下水を守るため、13都道府県16か所に広がる7,600haの森林で、同社の基幹事業として水源涵養活動を行っている。この活動では、水文、植生、林学のみならず、土壌、生物、防災、山村再生など、多様な分野の専門家との共同研究が進められている。本書はこれらの研究成果の一部を、研究テーマ毎に整理したものである。国土の約68%が森林である日本は、世界第二位の森林大国である。森林が有する自然資本としての多様な機能を保全し、有効に利用することが日本社会の持続的な発展に欠かせないとの認識が高まっている。本書で紹介された幅広い研究成果は、今後各地で行われる森林保全等の活用にも極めて有用である。